

中

山下公園に砂浜！？
～あなたの知らない
都会の海～

中区埋め立ての歴史

中区は、横浜の開港後から港町として日本人だけではなく外国人も生活をする場所でした。日本人と外国人の接触を避けるための関門の内側は関内と呼ばれ、横浜の行政や経済の中心として発展していきます。その後、関東大震災や横浜大空襲の被害を大きく受けましたが、復興とともに港湾整備や埋め立てが進められ、現在の姿へと発展してきました。

距離
約3.5km

所要時間
約1時間

4 象の鼻

象の鼻パーク

高波の影響をなくす堤防として、1867年に完成した象の鼻。現在では水上タクシー乗り場があり、周辺は公園(象の鼻パーク)になっています。象の鼻パークでは、「スマートイルミネーション横浜」などの各種イベントも行われます。カフェもあります。



クロダイのなかま

3 大さん橋

横浜港大さん橋国際客船ターミナル提供

横浜港大さん橋国際客船ターミナルは、豪華客船が入出港する横浜港を代表するターミナルです。屋上は「くじらのせなか」のように見え、芝生の緑地も設けています。横浜らしい景色を一望することができ、時間によって雰囲気ががらっと変わります！



——— みなとみらい線
- - - 明治期の海岸線

出典：地図は、横浜市の都市計画図をもとに作成しています。
【横浜市地形図複製承認番号 令2建都計第9010号】
明治期の海岸線は、国土地理院古地図コレクションサイトの「迅速測図原図(フランス式彩色図)」をもとに作成しています。

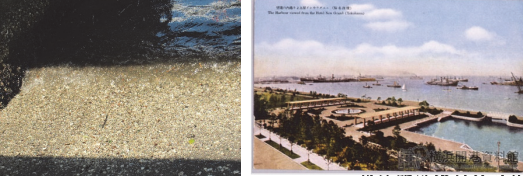


1 山下公園



関東大震災のがれきを埋め立てて造られた日本で最初の臨海公園。護岸とバルコニーは国の登録記念物に指定されています。海中には様々な生き物がいます。秋から冬にかけては護岸から見下ろすと海の底が見えるほど水がきれいです。

【公園内砂浜】 昭和期の山下公園



山下公園には小さな砂浜が残されています。バラの沈床花壇は昔、プール(船溜まり)になっており、プールと海をつなぐ水路に砂がたまって、潮が引くと砂浜が出現します。波音に癒されます。

【石のステージ】



山下公園の端にある、遺跡のような不思議な雰囲気を放つ石のステージ。ステージの近くには生き物の形のタイルがたくさん。

いくつ生き物を見つけられるかな？

2 明治期の絵図

1870年(明治3)頃の横浜港



昔は外国船と日本船で船着き場を使い分けていたそう。④象の鼻・象の鼻パークに行って、2枚の絵図と今の風景を比較してみましょう。

1910年(明治43)頃の横浜港



コラム

横浜市とJFEスチール株式会社は、公民連携による「豊かな海づくり」を実施しています。山下公園前海域における鉄鋼スラグ製品を活用した生物の生息環境を改善する取組が評価されています。

令和3年度土木学会環境賞受賞
第5回エコプロアワード 国土交通大臣賞受賞
EcoPro Awards 2022
公民連携 初受賞!
取組を実施した 山下公園前の海の中